

堺市指定名勝 妙國寺庭園の成立について

福原成雄

はじめに

堺市妙國寺は、南海電車堺東駅から北西に歩いて10分程の旧土居川に近い場所に位置している。

(図-1 参照)

境内には、大正13年(1924年)に国指定天然記念物に指定された不思議な経歴を持つソテツが、亀石組の中に植えられている。(図-2 参照)

近年、樹勢が弱まり平成20年度から「NPO法人おおさか緑と樹木の診断協会」により「国指定天然記念物 妙國寺のソテツ再生事業」として診断調査、治療再生、保護増殖処置工事が行われた。

その一環として平成22年度に堺市文化財保護課の依頼により、蘇鉄育成のためソテツ周囲の亀石組を外して土を入れ替え、ひと回り大きくする石組の組み換えを行った。

引続き本堂方丈の本庭に位置づけられ、歴史性も高い東側「ソテツ庭」の実測調査を環境デザイン学科福原研究室と「NPO法人おおさか緑と樹木の診断協会」とで行い、23年度に国指定の蘇鉄も含め一体となる「ソテツ庭」として復元整備を行った。

「国指定天然記念物 妙國寺のソテツ再生事業」の亀石組拡張据え直し内容と「ソテツ庭」の調査復元内容について説明し、亀石組、国指定天然記念物蘇鉄、蘇鉄庭の作庭年代、植栽年代を文献調査資料、実測調査、発掘調査、復元工事資料等に基づいて検討し、明らかにする。



図-1 妙國寺位置図



図-2 庭園位置図参照

1. 妙國寺

1) 妙國寺の概要

妙國寺は、日蓮宗の本山、山号は広普山。

戦国時代畿内を支配していた三好豊前守之康（三好義賢・実休）が、大蘇鉄を含む土地を開山日珖上人に寄進し、日珖上人の父で堺の豪商であった油屋伊達常言、兄常祐がここに常塔伽藍を建立、皇室より勅願所と定められた。

幕末に起こった堺事件ゆかりの寺として知られている。

2) 妙國寺建築の概要

- (1) 元亀2年(1571年)本堂が竣工。
- (2) 天正11年(1583年)には、広大な寺地に14の坊、南北の学問所などを備えた伽藍が出来上がる。
- (3) 元和元年(1615年)の大阪夏の陣には、豊臣方の武将大野道犬が、徳川家康が妙國寺に滞在していると攻め入り諸堂が焼き払われた。
- (4) 寛永5年(1628)本堂、続いて祖師堂、三重塔、客殿、方丈、勅使門、鐘楼、経蔵、書院、徳正殿、その他支院等が再建された。徳川家光(1604年～1651年)
- (5) 明治32年7月、本堂、祖師堂、客殿、三重塔、寶蔵、勅使門、四方塀等の営繕。
- (6) 昭和3年4月、徳正殿増築、ソテツ園の通路拡張大改造。
- (7) 昭和3年10月、天延記念物ソテツの標識及注意札建設。
- (8) 昭和20年7月、堺大空襲による戦火で再び大半を焼失。
- (9) 昭和48年、本堂等を再建し現在に至っている。

3) 妙國寺庭園の概要

本庭園は、本堂南側及び東側の、国指定天然記念物「妙國寺のソテツ」の石組みを含む範囲に広がる。天然記念物に指定されている本堂南側のソテツは、古くから堺の名木として知られ、阿波（現在の徳島県）の豪族三好一族の三好之康（実休）（1527～1562）が、堺に奇樹ありと聞き、この地を訪れたところ、ソテツのあまりの見事さに庭園を開き別荘を構えたと言われている。その後、永禄5年(1562)に至り、ソテツを含む東西三丁、南北五丁の広大な土地と寺領五百石が、堺の豪商油屋出身の日珖上人に寄進され、妙國寺が建立された。

織田信長がこのソテツを安土城に移したところ、毎夜「堺へ帰ろう」と泣いたため、妙國寺に返したという伝説が大変有名である。

天然記念物のソテツの周囲には亀石組がめぐらされ、ソテツを守るように作られている豪快な亀石組の亀の背中にあたる部分にソテツが植えられ、龍を現しているとされている。

2. 国指定天然記念物 妙國寺のソテツ再生事業

1) 保存整備打合せ（2010年2月9日）

妙國寺住職、堺市文化財保護課、NPO法人おおさか緑と樹木の診断協会の方々と第1回打合せを行った。

ソテツの保護をするため、既存の亀石組を外して土を入れ替え、ひと回り大きくする計画で、その亀石組拡張指導を依頼された。また、東側のソテツの庭園についても実測調査がされていないので、後日、学生と共に測量する事になった。

大阪芸術大学環境デザイン学科学生も庭園保存整備の意義、手法勉強のため参加した。

2) 妙國寺亀石組

ソテツを守る様に豪快な亀石組が作られている。特に東側の尾崎石（亀尾石）から北側の脚石、手石、西側の亀頭石の配石はバランスが取れており力強く見事である。

しかし、南側の手石、脚石の役石については、役石と役石とのつなぎである石組のなじみが弱い。これは、東側、北側、西側が通路、建物に接して、観るべき石組として作られ、南側が裏として石組に力を入れなかったと考えられる。

「和泉名所図絵」からも方丈の南庭として庭門から入り東、北、西三方から眺められる亀石組、蘇鉄である事が明らかである。さらに、役石と役石のつなぎであるなじみが、不自然に感じられる場所があり、何度か改変が行われたと考えられる。

西側、亀頭石に向かって右に飛石階段が作られており、ソテツの内部に立入が出来る様になっている。（図-3 参照）

（写真-1.2.3 参照）

3) 亀石組

亀石組は、仙人の住む神仙島が、巨大な亀の背に載っていると考えた中国から伝えられた神仙思想の影響を受け、鎌倉、室町時代から江戸時代にかけて、日本独自の石組手法で池庭、枯山水庭園に盛んに作られた。

長寿、招福の願いをもこめ、鶴石組と対になって作られる事が多く、亀頭石、両手石、両脚石、尾崎石等、6石の役石を備え抽象的、具象的に作られた。

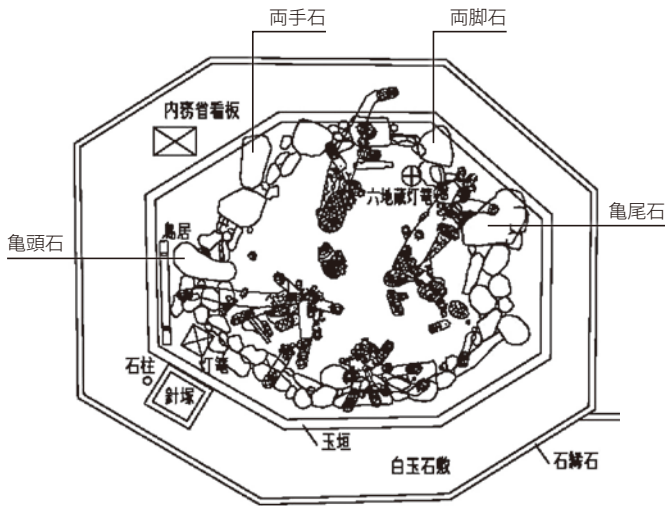


図-3 亀石組現況平面図(NPO法人おおさか緑と樹木の診断協会作成)



写真-2 亀頭石



写真-3 亀尾石



写真-1 利休好みの灯籠

4) 亀石組拡張工事指導(2010年3月17日)

亀石組拡張移設工事の指導を行った。尾崎石組から始めたが、かませ石3点の石で、尾崎石約2.5tを支えており、砂利敷き等の基礎作りはされていなかった。また、年代を特定出来る遺物も見つける事が出来なかった。(写真-4.5.6.7参照)



写真-4 亀尾石組全景



写真-5 亀尾石基礎



写真-6 亀尾石設置



写真-7 参照

5) 亀石組拡張工事指導(2010年3月20日)

午前中に亀頭石の移設工事を行った。亀頭石の基礎石は、中程に天端の平な石を据え、頭をわずかに持ち上げる様

に小石を並べていた。基礎石の下部から砕かれた瓦、鉄屑がわずかに出土し、亀頭石の付け根基礎からは30cm程の漆喰層が現れ、亀頭石の添え石裏より、寛永通宝一枚、別の箇所からも一枚が出土した。手石と添え石の移設据えつけをしてきょうの石組工事を終了した。(写真-8.9.10.11参照)



写真-8 亀頭石



写真-9 亀頭石基礎



写真-10 亀頭石設置



写真-11 亀頭石石組



写真-12 亀石組拡張整備完了

6) 亀石組拡張工事指導(2010年3月28日)

亀石組移設据付指導を行った。午前中は、手石と脚石のつなぎ石組を行い、午後から裏側と考えられた手石と脚石の移設据付をしたが、根入れがしっかりとされ、いい加減に据付けされた石組ではなかった。

また、脚石に接して据えられた天端が平な石を吊り上げると下端が見事な形状の海石で、悩んだ結果、石の声に従い天地を変えて据付をした。

茶庭を専門にされ石の扱い方が上手い方、樹木を専門にされている樹木医の方々と気心も合い、歴史的な蘇鉄再生と石組の据え直しは、効率重視の仕事とは違い、後世に引き継ごうとする使命感に溢れた人達と造園の素晴らしさを感じる時間であった。(図-4 参照)(写真-12.13参照)



写真-13 亀石組拡張整備完了

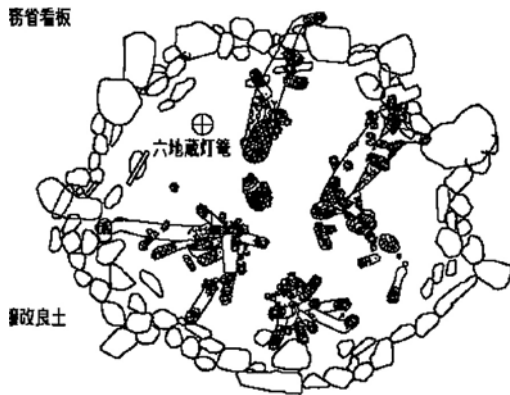


図-4 亀石組拡張整備(NPO法人おおさか緑と樹木の診断協会作成)

3. ソテツ庭調査測量

1) 堺市妙國寺庭園測量(2010年8月2日)

きょうから二日、国指定の天然記念物に指定されているソテツの庭で有名な堺市妙國寺庭園の測量を環境デザイン学科学生6名、樹木医の方々と行う。不思議なことに庭園の測量図面が無く、今まで実測されていないので、どのような秘密が隠されているか楽しみである。

2) 猛暑の中の庭園測量(2010年8月3日)

樹木医の方々3名と大学院、学部学生5名が参加して測量を開始した。あまりの暑さに、1時間毎に休憩をしながら平板測量とソテツの実測を行った。ソテツが大きくなり、主石の石組、滝石組、流れ石組、飛石が覆い隠されて、当初庭園の姿からは違ったソテツだけの庭園として見られていた。

しかし、下には素晴らしい石を使って独特の護岸石組が残されていた。

今回の調査で、作られた当初の姿を再現すると共に、これからの姿をどの様にするか樹木医の方々と検討し、未指定の

ソテツ庭園を名勝指定にされる事を提案したいと考えている。

この様な庭園測量も大阪芸術大学環境デザイン学科の大きな使命である。(図-5 参照)

(写真-14.15参照)



写真-14 ソテツ庭全景



写真-15 ソテツ庭測量打合せ



図-5 ソテツ庭測量図

3) 妙國寺庭園調査(2011年2月14日)

きょうは文化財指定と整備提案を目的にした妙國寺庭園調査を行う。昨年、国指定天然記念物のソテツ保護のため亀石組の拡張据え直しを指導した。

来年度から東側の庭園についても大きくなり過ぎたソテツを整理し、鑑賞出来る姿に復元して全体を名勝指定庭園にする事を目的に調査を行う。

4) ソテツ庭調査現状の問題点

- (1) 庭園全景がソテツの拡張によって短調で狭くなり、庭園景である枯れ流れ、景石、飛石、灯籠等が見えなくなっている。
- (2) ソテツが回遊路である飛石に覆い被さり、蘇鉄を支える支柱、樹木の根で飛石が浮き上がりガタ付き、天端が傾き歩行が不可能な場所がある。
- (3) 当初植えられた樹木(マツ、低木)が無くなっている。
- (4) 当初の灯籠配置、形態が、地震、風害、近代に寄贈された灯籠等で場所、組替えが行われている。
- (5) 庭園外の建物、広告塔、電柱等が庭園景観を阻害している。

5) 修復整備内容

- (1) 当初植えられていなかった蘇鉄を移植する。(写真-24参照)
- (2) 大きくなり過ぎたソテツを小さくする(写真-23参照)

- (3)敷地外の庭園景観を阻害している建物、広告塔を隠す為に敷地境界部分的に常緑樹(シラカシ、アラカシ、クロガネモチ等)を植栽する。(写真-25参照)
- (4)本堂側の移植したソテツ跡地に当初植えられていたと考えられるツツジ類を植栽する。(写真-31.32参照)
- (5)近代据えた灯籠を庭園外の場所に据直しを行う。
- (6)配置、組替えが行われた灯籠については絵図を参考に組替え据直しを行う。(写真-26.27.28.29.30参照)
- (7)ガタ付き、天端が傾いている飛石の据直しを行う。(図-6 参照)



図-6 ソテツ庭整備計画図

4. ソテツ庭復元

1)ソテツ庭復元工事(2011年5月16日)

午前10時30分から妙國寺様、堺市文化財担当者、施工関係者の皆さんと妙國寺庭園の復元整備工事の内容、日程等の打合せを行った。いよいよ6月から工事が始まる。

昨年、国指定天然記念物ソテツ周りの亀石組庭園整備をお手伝いし、その庭と一体になる様に、そして、素晴らしかった庭園の姿に復元整備が行える事に心から喜びを感じている。

2)ソテツ庭復元工事(2011年6月20日)

10時に到着し、NPO法人おおさか緑と樹木の診断協会と雪見灯籠を撤去すること、五重層塔を入れること、灯籠の入れ

替え、石の手直し等を打合せした。

今回は木曜日に入り、土曜日までに完成を目指す事になった。(写真-16.17.18.19.20.21.22.23参照)



写真-16 工事指示



写真-17 ソテツ掘り取り



写真-18 出土遺物一石五輪塔



写真-19 墓石



写真-23 ソテツ切り戻し



写真-20 出土遺物



写真-21 灯籠移設



写真-22 ソテツ移植

3) 出土遺物に関する所見メモ(2011年7月5日)

(1) 2011年6月7日出土

A、ソテツ「コ・サ」(雪見灯籠の左)出土

- ・一石五輪塔①(空風輪欠損) 和泉砂岩製
「慶長□年 蓮華経 安詳霊 九月十八日」

*「霊」は異体字を用いる

*「八」は不確実

- ・一石五輪塔②(空輪欠損) 和泉砂岩製

「慶長十□年 法蓮華経 妙正霊 慶長14年だとしたら
1609年 十一月廿日」

* □は「四」の可能性あり

*「霊」は異体字を用いる

(写真-18参照)

(2) 2011年6月9日検出

A、雪見灯籠左奥2つ目の庭園石組

- ・墓石 花崗岩(自然石)

「 妙善 辰七月□日

妙法 宗心 □□月七日

妙養 卯八月十七日」

(写真-19参照)

以上が、出土データごとの出土遺物の種類・年代観等の全容であるが、これらから考察される若干の所見と、注目される出土遺物の評価について、以下に箇条書きにしておくことにする。

- ①雪見灯籠左のソテツ周辺から出土した一石五輪塔に

は、2点共に「慶長」(1596～1615)の銘が存在するが、いずれも遊離した状態で出土しており、ダイレクトに慶長期という年代を示すものではない。

②これまでも堺環濠都市遺跡内からは、紀年銘を有する一石五輪塔が、礎石や溝の護岸等の他遺構に石材として転用された事例、寺地町東1丁から集中して出土している事例や、近世墓地の盛土等から遊離した状態で出土する事例が存在するが、これらの紀年銘は文明12年(1480)～慶長18年(1613)の計52点であり、今回の2点の「慶長」銘一石五輪塔もこの時期幅の中に収まるものである。

③今回の一石五輪塔2点・墓石1点に記されている題目や戒名に注目してみると、いずれも日蓮法華系の宗派を示してお

り、妙國寺の宗派と見事に一致している。(文責 堺市文化財課・嶋谷和彦)



写真-24 蘇鉄移植



写真-25 全景



写真-26 掘削で出現した敷石、飛石



写真-27 石組



写真-30 歌碑設置



写真-28 石組



写真-31 植栽工事



写真-29 石塔据付け



写真-32 植栽工事

4) ソテツ庭復元工事(2011年7月14日)

妙國寺の最終チェックを行った。

和泉名所図絵、明治9年に描かれた図絵を元に国指定の天然記念物であるソテツ周りの石組、亀石組と東側の庭園との関係、歴史的な事項と庭園との関係を考えた。

妙國寺とソテツ、妙國寺と信長、信長とソテツ、徳川家康と妙國寺の関係、妙國寺建物、現在の状況等である。

5) ソテツ庭復元工事(2011年7月21日)

午前中に庭園の仕上げ状況の再確認を行った。

庭園は石畳を施工中で今週中に完成。

白砂がひかれた庭園は当初の計画通り一体になった。

信長とソテツの関係、家康の妙國寺の関係等調べる必要がある。(図-7 参照)(写真-33.34.35.36参照)

5. 文献調査

1) 文献調査

庭園の過去の状態を知るために絵図、写真、書籍の収集を妙國寺、堺市文化財保護課の協力で行った。

写真関係資料

- (1) 堺名所 (妙國寺・祥雲寺) 絵葉書
- (2) 堺市妙國寺境内蘇鉄
- (3) 62 妙國寺
- (4) 土佐十一烈士ノ墓 妙國寺ノ蘇鉄
- (5) 堺妙國寺本堂及塔
- (6) 63 妙國寺内の蘇鉄
- (7) 堺妙國寺ノ蘇鉄
- (8) 妙國寺蘇鉄
- (9) 妙國寺の大蘇鉄 (堺市材木町東三丁)
- (10) 妙國寺の蘇鉄
- (11) 泉州堺妙國寺の塔
- (12) 泉州堺妙國寺蘇鉄
- (13) (妙國寺)

図書関係資料

- (14) 「絵本太閤記」江戸中期 寛政9年(1797年) 戯作者 竹内確斎 挿絵師 岡田玉山
- (15) 「新書太閤記」江戸後期 栗原抑庵編
- (16) 完訳フロイス日本史 平成12年(2000年)初版

図版関係資料

- (1) 摂泉堺廣晋山妙國寺 寛政6年(1794年) 今来春延画木版
- (2) 28 摂泉堺廣晋山妙國寺(寛政6) 1794
- (3) 和泉名所図絵 寛政8年(1796年) 名所名園案内
- (4) 泉州堺廣晋山妙國寺境内全図 明治9年(1876年) 境内絵図
- (5) [妙國寺蘇鉄之図] 大正15年
- (6) 境内地域減縮建造物一部移転改造現在明細圖 昭和15年(1940年)3月 実測図

2) 古図、写真等の比較考察

本堂南側玉垣内のソテツは古くから堺の名木として知られ、織田信長がこのソテツを安土城に移したところ、毎夜「堺へ帰ろう」と泣いたため、妙國寺に返したという物語が作られた。安土城は天正7年(1579)築城され、天正10年(1582)焼失している。

「和泉名所図絵」秋里離嶋著には、敷地が三好豊前守之康(実休)の時にソテツが植えられ、その大きさと名樹、霊樹とされ多くの人々が訪れていたこと、寺地として開基日珙僧正に寄附され、諸堂は油屋常言によって建立したことが書かれ、描かれている。

「和泉名所図絵」には、方丈の南側、方丈と塀から庭門の間に亀石組と見られる石組群の中央に大ソテツが植わり周囲に人が集まり眺めている様子が描かれ、さらに、方丈の東側奥角とお堂の間に石組群と一株のソテツ、東側境界塀内側に沿って松が描かれている。

3) 妙國寺亀石組、ソテツ庭の考察

亀石組が完成した年代は、本堂竣工の元亀2年(1571)から、伽藍が整備された天正11年(1583)頃にかけて、もしくは、大坂夏の陣の兵火後に本堂が再建される寛永5年(1628)頃のいずれかの時期と考えられる。

本堂東側の庭園は、当初、ソテツが大きく成長し、主石の石組、滝石組、流れ石組、飛石が覆い隠されて、ソテツだけの庭園として見られていた。

しかし、調査及び平成23年度に実施された修景事業の結果、ソテツを中心にした平庭林泉回遊式枯山水であることが判明した。

本庭園は、明治28年(1895)に描かれた境内絵図「泉州堺廣晋山妙國寺境内全圖」により、江戸時代後期頃の姿をうかがうことができる。

庭園は、築山を築かないソテツの配植を中心にした平庭林泉回遊式枯山水で、枯れ流れを二筋設けている。一筋は中央富士型の石組みを滝口に見立て、方丈に向かって流れ下り、途中に石橋を架け景色を作っている。もう一筋は北東側に低い滝口を設け、方丈に向かって流れ下り、ここにも切石の橋が架けられている。流れは部分的に大振りの石を使用した

方丈正面護岸石組み前で合流し南に向かって緩やかな川の景色を作っている。

東側庭園は、妙國寺建立以前の三好邸内の庭園及び、日珖上人による伽藍整備の際に存在した庭園の流れを継承したものと考えられるが、大坂夏の陣の兵火を経て、江戸時代の伽藍整備に並行して本格的な作庭がおこなわれ、現在の姿が完成されたと考えられる。

ソテツを中心にした枯山水庭園は、特別名勝西本願寺大書院庭園「虎溪の庭」寛永9年(1632)があるが、ソテツを取り巻く亀石組と、ソテツを中心にした平庭林泉回遊式枯山水庭園で構成される当庭園は、全国的にも類を見ない貴重なものである。

(図-8.9.10.11.12.13.14.15.16.17.18 参照)

(写真-37 参照)



図-8 堺名所絵葉書 堺名所(大正頃)堺名勝(昭和始)



図-9 堺名所絵葉書(大正頃)



図-10 堺名所絵葉書 堺名所(大正頃) 堺名勝(昭和始)



写真-37



図-11 和泉名所図絵 寛政8年(1796年)



図-12 和泉名所図絵 寛政8年(1796年) 部分

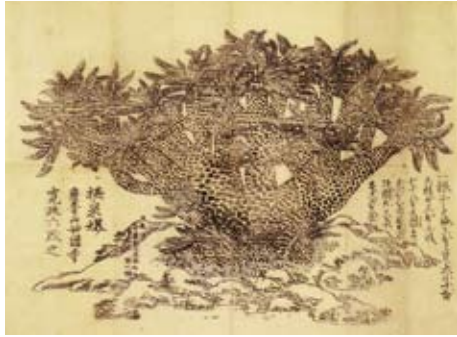


図-13 摂泉堺廣晋山妙國寺(寛政6)1794



図-14 [妙國寺蘇鉄之図]大正15年



図-15 泉州堺廣晋山妙國寺境内全図 部分



図-16 泉州堺廣晋山妙國寺境内全図 部分



図-17 泉州堺廣晋山妙國寺境内全図 部分



図-18 境内地域減縮建築物一部移転改造現在明細圖 部分

3)同時代の類似庭園考察

庭園名称	作庭年	枯山水	亀石組
(1)西芳寺庭園	延元4年(1339)		
(2)織田信長居館跡庭園	永禄10年(1567)慶長5年(1600)		
		書院造庭園	不明
(3)安土城庭園	天正7年(1579)天正10年(1582)		
		書院造庭園	不明
(4)妙國寺	亀石組ソテツ 天正11年(1583)頃		
		枯山水	ソテツ亀石組
(5)二条城二之丸庭園	慶長7年(1602)		
	寛永3年(1626)小堀遠州改修	書院造庭園	ソテツ
(6)醍醐寺三宝院庭園	元和10年(1624)		
		書院造庭園	松 亀島石組
(7)妙國寺ソテツ庭	寛永5年(1628)以後		
		枯山水	ソテツ廻遊式
(8)西本願寺大書院庭園	寛永9年(1632)		
		枯山水	蘇鉄鶴亀石組
(9)金地院庭園	寛永9年(1632)	枯山水	鶴亀石組

小堀遠州(1579年～1647年)

(10)桂離宮庭園 元和3年～宝永年(1617～1708)

廻遊式庭園 ソテツ山

(1)西芳寺庭園(京都市西京区) 1339年頃作庭

極楽浄土を表した下部の池泉庭園と禅宗の影響を受けた深山幽谷の枯滝を表現した上部の枯山水庭園。

夢窓国師によって造られた。(写真-38参照)



写真-38 亀石組

(2)織田信長居館跡庭園 織田信長(1534年～1582年)

ルイスフロイス『アルカラ版イエズス会士書簡集』より 永禄12年(1569)に訪問。

すべてがきわめて巧妙に、思いのままに作られていた。すなわち、もう何も無いと思われるところにイヤシャキ(座敷)が現れ、これに続いてある定まった目的のための別の部屋が次々と現れた。広間の最初の廊下は15か20の座敷へと至るのだが、…

縁の外側には5～6の美しい庭があるが、すべてがきわめて丁寧で新しく、何か雪のように白いもので作られていて、小さな空間をなしている。…3階は山側へと、通路で同じ高さでつながっており、

すなわちチャの座敷(茶室)がある。これらは非常に落ち着いて騒音は全くなく、その完璧と調和は、私が見てきたものすべてに関して、疑いもなくこれを超えるものは決していないのである。3階と4階の見晴台と縁からは街の全体が見える…(写真-39参照)



写真-39 庭園遺構

(3)安土城庭園 ルイス・フロイス 日本史第2部31章

信長は、この城の一つの側に廊下で互いに続いた、自分の邸とは別の宮殿を造営したが、それは彼の(邸)よりもはるかに入念、かつ華美に造られていた。我ら(ヨーロッパ)の庭園とは万事において異なるその清浄で広大な庭、数ある広間の財宝、監視所、粋をこらした建築、珍しい材木、清潔さと造作の技巧、それら一つ一つが呈する独特でいとも広々とした眺望は、参観者に格別の驚愕を与えていた。

多種の灌木がある庭園の美しさと新鮮な緑、その中の高く評価されるべき自然のままの岩塊、魚のため、また鳥のための池……松田毅一・川崎桃太 訳

中央公論社刊 (写真-40参照)



写真-40 安土城二ノ丸跡

(4) 妙國寺 亀石組蘇鉄

亀の背中には、長寿のシンボルであるマツ、ビャクシンが植えられるが、妙國寺は、ソテツが植えられ、竜を現していると考えられている。

ソテツは、元亀2年(1571年)～伽藍が整備された天正11年(1583年)頃に植えられたと考えられる。

(5) 二条城二の丸庭園



写真-41 二条城のソテツ



(6) 醍醐寺三宝院庭園



写真-42 亀島

(7) 妙國寺ソテツ庭

亀石組の作られた年代は、本堂竣工の元亀2年(1571年)～伽藍が整備された天正11年(1583年)頃と考察される。

ソテツ庭は、大坂夏の陣で、徳川家康(1542年～1616年)が妙國寺に滞在した事から豊臣方により、全山を焼失した元和元年(1615年)後の寛永5年(1628年)に本堂が再建され、諸堂も再建された寛永5年以後と考察される。

(8) 西本願寺大書院庭園



写真-43 亀石組

(9) 金地院庭園



写真-44 亀石組

(10) 桂離宮庭園

後陽成天皇の弟であり、秀吉の養子であった八条宮智仁親王により元和3年(1617)頃作庭される。

二代目智忠親王により第二期工事が行われた。宝永年(1708)頃庭園が完成する。



写真-45 ソテツ山

おわりに

ソテツが大きくなり、主石の石組、滝石組、流れ石組、飛石が覆い隠されて、当初庭園の姿からは違ったソテツだけの庭園として見られていた。

しかし、下には素晴らしい石を使って独特の護岸石組がされていた。

今回の復元調査で、作られた当初の姿を再現すると共に、これからの姿をどの様に維持管理するか妙國寺、堺市文化財保護課、「NPO 法人おおさか緑と樹木の診断協会」の方々と検討し、今後とも現在の状態を保存整備して行く事が決定した。

復元整備の結果と調査内容、維持管理方針等により、未指定であった国指定天然記念物周りの亀石組とソテツ庭園は2012年度堺市の名勝庭園に指定された。

参考文献

事例報告「妙國寺のソテツ再生事業」記念講演集 平成22年度一般社団法人日本樹木医会大阪・堺大会
「絵本太閤記」江戸中期 寛政9年(1797年) 戯作者 竹内確斎
挿絵師 岡田玉山
「新書太閤記」江戸後期 栗原抑庵編

